

令和4年度 学校保健統計調査結果（鳥取県） 確報

この調査は、文部科学省が毎年実施している基幹統計調査で、国の確報に併せて鳥取県分を取りまとめました。

○調査の目的

学校における幼児、児童及び生徒の発育及び健康の状態を明らかにすることを目的としている。

○調査対象者

幼稚園、幼保連携型認定こども園、小学校、中学校、義務教育学校及び高等学校の調査実施校に在籍する満5歳から17歳(令和4年4月1日現在)までの幼児、児童及び生徒の一部。

1 発育状態調査

- (1) 身長推移は、男子は平成13年度あたりから、女子は平成9年度あたりから横ばい傾向となっている。
- (2) 体重推移は、男子は平成17年度あたりから、女子は平成9年度あたりから横ばい又は減少傾向となっている。
- (3) 肥満傾向児の出現率の推移は、年齢区分でバラツキはあるが概ね横ばい傾向であったが、5歳を除くすべての年齢で増加。**特に6歳、7歳及び9歳～13歳で過去最多であった。5歳の肥満傾向児の出現率(1.32%)は全国最少。**
- (4) 痩身傾向児の出現率の推移は、年齢区分でバラツキはあるが概ね横ばい傾向であったが、6歳～9歳、14歳、15歳及び16歳は、前年度と比べると増加した。

2 健康状態調査

- (1) 裸眼視力(1.0未満)の推移をみると、幼稚園においては平成24年頃をピークに減少傾向となっているが、その他の学校では増加傾向で、**小学校、中学校及び高等学校は過去最多**であった。
- (2) 鼻・副鼻腔疾患の推移は、バラツキはあるが減少傾向となっているが、幼稚園以外の学校で全国を上回った。
- (3) むし歯(う歯)の推移は、昭和50年代をピークに減少傾向となっており、**すべての学校で過去最少**であった。
- (4) アトピー性皮膚炎の推移は減少傾向となっているが、すべての学校で全国を上回った。
- (5) ぜん息の推移は平成23年度頃から減少傾向となっているが、高等学校以外の学校で全国を上回った。

3 相談員配置状況(児童が悩みや不安を気軽に相談できる地域の人材等)

相談員の定期配置が週4時間以上の割合は、全国と比べ中学校が20.8ポイント、高等学校が10.3ポイント上回った。

4 スクールカウンセラー配置状況(臨床心理に関し高度に専門的な知識・経験を有する者)

スクールカウンセラーの定期配置が週4時間以上の割合は、全国と比べ高等学校で19.7ポイント上回った。

図2-1 男子、平均体重の推移(昭和23年度～)(鳥取県)



